

科目名	はり実技 4							年度	2026
英語科目名	Needle Practice 4							学期	後期
学科・学年	鍼灸科 2年次	必/選	必	時間数	45	単位数	1	種別※	実習
担当教員	小堀孝浩 宮本陽平 安藤亮	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		

【科目の目的】

1年時に学んだ解剖学的知識を活かし、身体の筋肉、神経、関節部などに対する触診・刺鍼を学び、体得する。その技術を応用し、低周波鍼通電療法（以下、鍼通電療法）の方法と適切に評価する力を身につけることを目的とする。

【科目の概要】

①毎回の課題となる解剖学的知識について復習し、触診のイメージ・方法を習得する。②触診のコツを学んだら、実際に課題の筋肉等へ刺鍼を行う。③刺鍼後、鍼通電療法を試み、適切に行えているか評価・理解する。※授業に臨むにあたり、実技の授業は予習・復習が大切になるため、筋骨格系の基礎知識を復習し、イメージを膨らませて、触診の予習・復習をすること、基本的な刺鍼がしっかりできるように予習・復習することが大切である。日頃から練習し、毎回の授業の刺鍼を意識して取り組むことで、全身の様々な部位、深さ、方向への刺鍼が可能となり、鍼通電療法を習得していくことができる。

【到達目標】

解剖学的知識を復習して、全身の筋肉や神経などをイメージしながら触診・刺鍼できるように修練し、低周波鍼通電療法の基本的な方法を習得することを目標とする。また、鍼通電療法の臨床現場での応用についても学ぶようにする。

【授業の注意点】

授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	基本刺鍼が素早く・リズムよくできる。	基本刺鍼がスムーズにできる。	基本刺鍼が問題なくできる。	基本刺鍼が時間がかかるができる。	基本刺鍼が上手くできない。
到達目標 B	低周波鍼通電療法の機械をスムーズに使え、施術内容も理解して使用できる。	低周波鍼通電療法の機械をスムーズに使える。	低周波鍼通電療法の機械を問題なく使える。	低周波鍼通電療法の機械を時間がかかるが使え。	低周波鍼通電療法の機械を使いこなせない。
到達目標 C	刺鍼する筋肉など目標となる部位を素早く・的確に触診できる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位を的確に触診できる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位を触診できる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位の触診に時間がかかる。	刺鍼する筋肉など目標となる部位を触診できない。
到達目標 D	低周波鍼通電療法の手技を素早く・的確に行える。	低周波鍼通電療法の手技を的確に行える。	低周波鍼通電療法の手技を問題なく行える。	低周波鍼通電療法の手技が時間がかかるが行える。	低周波鍼通電療法の手技が上手くできない。
到達目標 E	目的とした低周波鍼通電療法ができていないか素早く理解し、応用力も身につけている。	目的とした低周波鍼通電療法ができていないか素早く理解している。	目的とした低周波鍼通電療法ができていないか理解している。	目的とした低周波鍼通電療法ができていないか時間がかかるが理解している。	目的とした低周波鍼通電療法ができていないか理解力が乏しい。または理解できていない。

【教科書】

担当教員が資料を作成し、毎回配布する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

実技試験を実施し、評価する。また、予習や毎回提出するプリント、課題などの提出状況、授業の取り組みも評価に加味する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		はり実技 4			年度	2026
英語表記		Needle Practice 4			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	肩上部の鍼通電療法②	僧帽筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼（特につまみ押手）および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	僧帽筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	僧帽筋上部線維の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	僧帽筋上部線維の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
2	頸部の鍼通電療法①	頭板状筋と頭半棘筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	頭板状筋と頭半棘筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	頭板状筋と頭半棘筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	頭板状筋と頭半棘筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
3	頸部の鍼通電療法②	肩甲挙筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	肩甲挙筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	肩甲挙筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	肩甲挙筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
4	肩甲間部の鍼通電療法①	菱形筋の解剖学的知識を復習し、安全で、確実な刺鍼をできるようにする。	1 解剖学の復習	菱形筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	菱形筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	菱形筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
5	肩甲間部の鍼通電療法②	菱形筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	菱形筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	菱形筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	菱形筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
6	肩関節部の鍼通電療法	棘上筋と棘下筋の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	棘上筋と棘下筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	棘上筋と棘下筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	棘上筋と棘下筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
7	復習の時間・臨床現場について③	後期の内容を復習する。臨床現場の実際について話し、新しい情報や現場の情報を得る。	1 解剖学の復習	第1～6回の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 臨床現場の説明	臨床現場の患者の治療や経営について学ぶ。		
			3 EATの実習	第1～6回の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
8	前腕屈筋群の鍼通電療法	前腕屈筋群の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	前腕屈筋群の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	前腕屈筋群の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	前腕屈筋群の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
9	前腕伸筋群の鍼通電療法	前腕伸筋群の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	前腕伸筋群の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	前腕伸筋群の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	前腕伸筋群の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
10	上肢の末梢神経への鍼通電療法	正中神経と尺骨神経の解剖学的知識と神経の走行を復習し、刺鍼・鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	正中神経・尺骨神経の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	正中神経・尺骨神経の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	正中神経・尺骨神経の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
11	顔面神経と顔面部への鍼通電療法	顔面神経と表情筋の解剖学的知識と神経の走行を復習し、刺鍼・鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	顔面神経・表情筋の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	顔面神経・表情筋の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	顔面神経・表情筋の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
12	皮下結合織への鍼通電療法	皮下結合織に生じる疾患について学び、皮下結合織へ横刺・鍼通電療法をできるようにする。	1 横刺の復習	基本刺鍼の横刺を的確に行えるようにする。	2	
			2 触診とEATの見学	皮下結合織のEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	皮下結合織の刺鍼・EATを実践し、理解する。		
13	下肢の末梢神経への鍼通電療法	坐骨神経の解剖学的知識と神経の走行を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	坐骨神経の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	坐骨神経の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	坐骨神経の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
14	関節部への鍼通電療法	椎間関節の解剖学的知識を復習し、刺鍼および鍼通電療法をできるようにする。	1 解剖学の復習	椎間関節の解剖学の復習、機能を理解する。	2	
			2 触診とEATの見学	椎間関節部の触診とEATを見学し、イメージを深める。		
			3 EATの実習	椎間関節部の触診・刺鍼・EATを実践し、理解する。		
15	1年のまとめ・症例検討と実技	1年間のまとめをしながら、腰痛・腰下肢痛患者を想定して、臨床現場での応用を学び、身につける。	1 腰下肢痛の復習	腰下肢痛患者について復習し、理解を深める。	2	
			2 症例の検討	症例の問診・検査・評価・施術計画を理解する。		
			3 症例へのEATの実習	症例へのEATを実践し、理解を深める。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考等